

マックス小桿を使用する方法でのシュミレーション

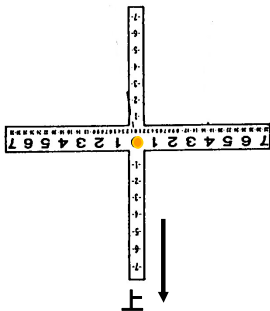
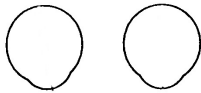
光源の前に位置させ、検査法の通り reading - off 法、recentration 法を行う。

正位であった場合は片眼にプリズムを 6 Base in に装用させ(この眼を未装用と考える) 偏位を作り他眼に小桿を装用し、同様に言い、recentration 法の際は小桿装用眼にプリズムを装用して中和する。

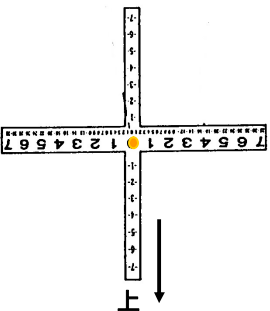
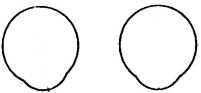
課題

1mにて Base in、out、up、down にそれぞれフレネル膜 10 を装用させ、reading - off 法にて検査し、見え方を記載し、なぜそう見たかの理由を図とともに記載する。(recentration 法は省略で良い)

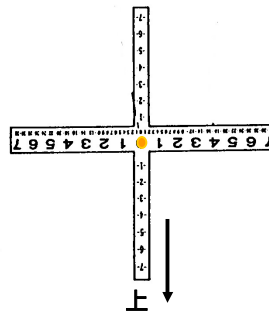
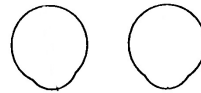
Base in



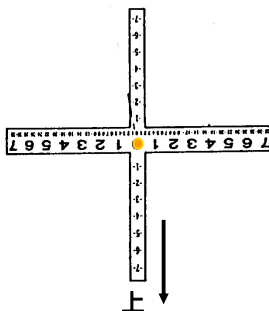
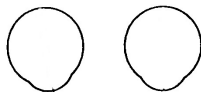
Base up



Base out



Base down



マドックス小杆を使用する方法でのシュミレーション

光源の前に位置させ、検査法の通り reading - off 法、recentration 法を行う。

正位であった場合は片眼にプリズムを 6 Base in に装着させ(この眼を未装用と考える) 偏位を作り他眼に小桿を装用し、同様に言い、recentration 法の際は小桿装用眼にプリズムを装用して中和する。

解答

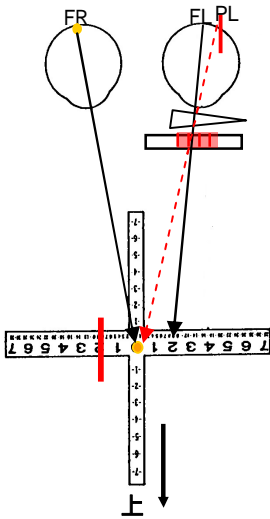
課題 1

1m にて Base in、out、up、down にそれぞれフレネル膜 10 を装用させ、reading - off 法にて検査し、見え方を記載し、なぜそう見たかの理由を図とともに記載する。(recentration 法は省略で良い)

例) reading - off 法にて 18° の外斜偏位があった場合

Base in

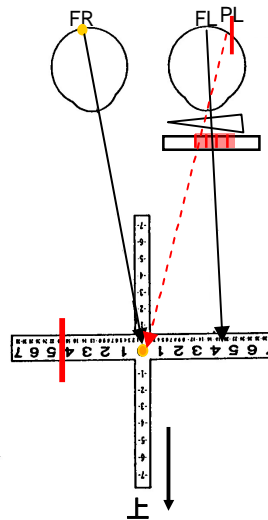
結果) 交差性 10°



10 Base in にプリズムを装用したことにより 5° 中和されることとなるので、 $18 - 5 = \text{約 } 13^\circ$ の外斜偏位となるが、プリズム装用位置の誤差と近接性輻轉他などで 10° になったと考えられる。

Base out

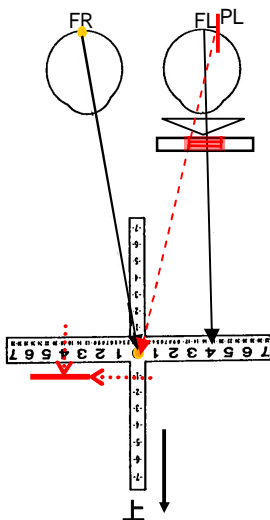
結果) 交差性 20°



10 Base out にプリズムを装用したことにより 5° 外斜方向に増加することとなるので、 $18 + 5 = \text{約 } 23^\circ$ の外斜偏位となるが、プリズム装用位置の誤差と近接性輻轉他などで 20° になったと考えられる。

Base up

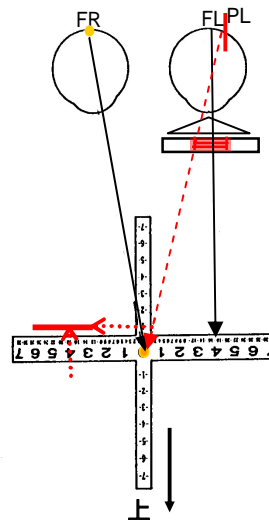
結果) 交差性 16° 下方 4°



10 Base up にプリズムを装用したことにより網膜上では 5° 中心窩より上方に偏位することとなり、視空間では水平方向の偏位はそのまま(誤差含む)、下方に偏位したと考えられる。

Base down

結果) 交差性 16° 上方 4°



10 Base up にプリズムを装用したことにより網膜上では 5° 中心窩より下方に偏位することとなり、視空間では水平方向の偏位はそのまま(誤差含む)、上方に偏位したと考えられる。